HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	巻頭言
Author(s)	芒亭
Citation	各務時報, 52
Issue Date	1931-05-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/77705
Type	article
File Information	A008_1936-52S4-S6_Part5.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

第五十二號

岐阜高等農林學校々友會

昭和六年五月三十一日發行

卷頭言

徹底的といふ言葉は青年の口からよく出て來る言葉である。この言葉に對立して居る姑息的と云ふことは青年の最もいみきらふものである人は誰れも終ひには死ぬと云ふ事を又世事は皆時と共に流轉して行くと云ふことを、そして又何事も所詮は姑息的のものだと云ふ事を知らないのではないが、青年は深く感じては居ない。だから苟も事をなせば徹底的に遂行し其は世の果てまでも永續するかの如くに考へ勝ちである捨てゝ居ても青年は覇氣に充ちて居る。「青年よ。野心を持て」とは云ふ必要のない事かも知れぬ。

山寺の坊さんは破れた障子を次ぎ〳〵に切りばりして行く。僅かに與へられた自分の周圍を叮嚀に修復しつゝ、少しでもより良いものにしやうとする心がけである。

青年の部屋では障子が破れると全部はり換へるか或ひは其のまゝである。極端を追ひ中間を卑しむ。夢は中間にないからである。青年は時計の振子だ。年をとるにつれて振幅が狹くなる終ひに眞中に垂れて動かなくなる。死ぬのだ。

山寺の坊さんは死の國に棲息して浮世を眺めて居る。泰樂の涅槃か。何もかもようく見えるだらうと思ふ。

時正に夢多き春、青年の振幅は廣い。

（芒　亭）